


No.	307	<h1>いかだづくり</h1>			
概要	角材、木板、ブイ等を組み合わせていかだを作り、船川周辺に浮かべて漕ぎ出すプログラム。				
内容	人数(人)	6~40人	時間	3時間	
	対象	中学年以上	時期	3~11月(12月は要相談)	
	場所	平田船川および宍道湖			
	指導形態	自主活動 ・ 職員による事前の説明のみ			
安全管理	引率者・職員による監視				
ねらい	○仲間と協力していかだを組み立てたり解体したりする。 ○安全に気をつけ最後まで全力で漕ぐ。 ○宍道湖の自然に関心を持つ。				
準備	施設から貸出	ライフジャケット いかだの材料 パドル 帽子(忘れた場合)			
	団体で準備	ぬれてもよい服(下に水着を着る方が望ましい) ぬれてもよい靴(サンダル不可) 帽子 タオル 水筒 カップ			
	確認事項	・いかだを複数作る場合は、グループ分けをしておく。(1つのいかだに乗れるのは、子どもで10~15人程度) ・配慮を要する研修者がいる場合は、事前打ち合わせで報告する。			

	内 容	留意事項
活動前	①実施できるかどうか確認する。 ②指導スタッフと打合せをする。(研修開始までに事務室で行う) ③研修者の持ち物の確認をする。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ④事前にトイレを済ませ、指導スタッフの指示で並ぶ。  ⑤指導スタッフの指示で、乗艇者名簿の順に並ぶ。	○午前中は8:15、午後は12:15頃の実施判断する。 ○中止の場合は、事前に決めておいた荒天時プログラムを行う。 ○研修者の健康状態の把握に努め、特に留意を要することがあれば相談する。 ○帽子はかぶらないと乗船できない。忘れた場合は、貸し出し用を借りる。
活動の説明	①いかだづくりの意義、留意点等について話を聞く。 ②持ち物を確認する。(帽子、水筒、タオル、天候によってはカップ) ③バスに乗り、艇庫へ向かう。	○開始時刻に遅れないよう、エントランスホールに整列する。 ○説明から展開まで指導スタッフが全て行う。
展開	①指導スタッフの紹介 ②説明を聞きながら、いかだを組み立てる。 ③いかだができたら、スロープまではこぶ。  ④ライフジャケットを着ていかだに乗り込む。 ⑤パドルをもっていかだを漕ぎ進める。  ⑥着岸後、いかだを運び、ライフジャケットを脱ぐ。 ⑦いかだを解体し、片付ける。 ⑧ふり返りをする。  ⑨バスに乗ってサン・レイクへ帰る。	○いかだづくり、いかだの漕ぎ方等の指導は、指導スタッフが全て行う。 ○怪我をしないよう、まわりに気を配りながら作業をする。 ○いかだは重いので、運ぶ時は十分気をつける。 ○いかだに乗る時や降りる時はバランスが崩れ傾くことがあるので注意する。 ○いかだに乗ったら立たないようにする。 ○コースは天候を見て判断する。 ○天候によっては、いかだができても乗れない場合がある。 ○落水した場合は、救助艇がくるのを待つ。 ○引率者は、いかだに乗ることが望ましい。  ○指導スタッフは、活動中、研修者に体調不良者がいないか声を掛けたり、表情を観察したりする。